

在宅療養「在宅コーナー」

『ひえい在宅療養応援団』について

大津市医師会在宅療養推進部員
比叡ブロック

口 出 将 司

大津市を7つのブロックに分けて、各ブロックで在宅診療充実を図るために、多職種間の勉強会、地域住民への講演会、シンポジウムの開催を行っています。比叡ブロックは、雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎地区の5学区から形成されます。当ブロックでの医療福祉多職種連携事業は『ひえい在宅療養応援団』を結団し、活動しています。地域としては、一般の住宅が多く、マンションなどの集合住宅は少ない目。平均的に高齢化が進み、JR湖西線と京阪石山寺坂本線が通っていますが、駅までの距離があり、交通には自家用車が不可欠です。高齢になって運転が出来なくなったり、足が悪くて歩行困難になると、病院への通院が出来なくなってしまう。在宅療養に期待を寄せる方も今後ますます多くなってくると予想されます。

在宅療養について、一般市民の理解はまだまだ十分に進んでいない現状があります。「どのような事をしてもらえるのか?」「どうやって申し込めばいいの?」「退院したけど、通院できないのでどうすればいいか?」など、疑問や不安を抱いている方がたくさんおられます。『ひえい在宅療養応援団』では、2か月に一回のペースで多職種での勉強会を行い、それを踏まえて地域住民を対象としたシンポジウムを企画しています。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、介護士など多職種をパネリストに招き、在宅療養の実例を紹介していきます。地域住民にたくさんご参加いただき、質疑応答なども行って、在宅療養に関する知識をより深めていただきたいと思えます。比叡ブロックでは、平成28年1月31日(日曜日)に唐崎市民センターにて「在宅療養シンポジウム:“住み慣れた場所でいつまでも暮

らしたい!”を形にした支援の輪(仮題)」を開催する予定となっています。これに向け多職種の勉強会を重ねて、より一層充実したシンポジウムにしたいと考えています。地域住民に在宅療養の実際をご理解いただき、在宅療養をより身近なものに感じていただきたいと思えます。

大津医師会の在宅療養推進部員として比叡ブロックの現状を考えた場合ですが、多職種連携についてはまだ顔見世が始まったばかりの状況ですが、徐々に連携が進んでいく雰囲気が出てきています。在宅療養の医療面についてですが、残念ながら医師間の連携、診療所間、病院と診療所間などの連携はまだシステムとしてしっかり確立していません。他のブロックではある程度の連携が形成できている地域もありますが、比叡ブロックにおいても早急に準備する必要があると考えます。各医療機関で連携し、夜間や土日祝日にも対応可能で、切れ目ない診療ができる体制が望まれます。第一回在宅療養推進部会開催時(平成27年7月末)で、比叡ブロックにおいては3つの私立病院(ひかり病院、琵琶湖病院、滋賀里病院)と10名の開業医の先生方が、連携参加の意向を示されています。

医療機関、医師ごとに診療スタイルが異なっているため、調整にはたくさんの高いハードルがあると思われま。比叡地域にふさわしい、マッチした診療体制づくりを進めていきたいと思えます。

